

【オンライン】信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための
学生への海外活動(短期)支援 実施状況および成果

プログラム名	オーストラリアウーロンゴン大学附属カレッジオンライン研修プログラム	
学部・研究科名	グローバル化推進センター	
プログラム実施期間	2022年 2月 21日～3月 4日 活動日数: 10日間 活動総合時間: 60時間	
研修先(国・教育機関名)	オーストラリア・ウーロンゴン大学附属カレッジ	
	参加学生数 2名	知の森からの支援者数 1名
プログラム概要	本プログラムは事前調査、UOW College Australia主催のプログラム参加、新たな構想の提案という一連の活動を通して、VUCA・ニューノーマル時代において重要視される「グローバル×構想力」の基礎を身に付けることを狙いとしている。事前課題では自らが着目する国内地域の課題を参加するコースに応じて設定し、その実際について調査を実施。研修期間中は各コースで授業を受けながら、オーストラリアでの地域課題や対応施策の実際について理解を深め、これらと比較・検討し、設定した国内地域が今後発展するための新たな構想を作り上げる。	

実施状況・成果

・本研修では午前中の4時間でグローバル人材に必要とされるコミュニケーションスキルを涵養する英語授業、観光地等のバーチャルツアー、現地学生との交流、午後の2時間でSDGsに関する講義、グループワークを行った。最後に研修の成果として、SDGsの17のテーマから関心のある1つのテーマについて、問題解決策をグループでまとめ、プレゼンテーションを行った。

・午前中の英語クラスでは他大学の日本人学生と共にSDGsや午後のグループワークの基礎となるプレゼンスキル、ブレインストーミング等をテーマとした授業が行われた。午後の授業ではSDGsに関する講義の受講及びグループワークを行った。グループワークでは、他大学の日本人学生、アジア圏の大学の学生数名で構成されたグループでSDGs17のテーマの解決策提案に向けてディスカッションやプレゼン準備に取り組んだ。グループワークでは英語でのコミュニケーションや他者の意見を尊重しながらも自分の意見を出し、それをまとめていくことの難しさを感じる場面もあったが、明るくて親切な先生方やメンターとして入っていた現地学生のサポートを得ながら、チームに貢献することができたようだ。

・本研修のもう1つの目標である「グローバル×構想力」については、事前学習として、学生自身が着目する日本国内の特定地域でのSDGsの進展に向けて取り組んでいる具体的事例のリサーチに取り組み、予備知識と課題意識を持って臨んだ。研修中はSDGsに関する講義やグループワークをとおして、オーストラリア及び他国のSDGsへの取り組み・課題等の実際について積極的に質問を投げかけながら理解を深め、新たな構想の基礎とすることができた。参加者は5月頃に成果報告会を行い、英語で学修成果及び事前課題として設定した国内特定地域のSDGs取り組み事例とその活動をさらに発展させる構想を提案する予定である。

学生の声①-工学部 学生

思ったより日本はSDGsのランキングが高いことが分かった。しかし、地球温暖化の観点からSDGsを考えると、日本は人々の意識が低く、積極的に進んでいないと思った。また、チームメンバーの話を聞くと、SDGsの基礎的な知識があり、人々が話し合う状態が整っていると感じた。それに比べると日本はとても遅れていると感じた。

自分が英語で説明しているときに、海外の人には伝わっていることが多いと思ったが、日本人に伝わっていないことが多かったため、もっとわかりやすい英語表現を覚えていきたいと思っている。

学生の声②-工学部 学生

マスタークラスの講義はやはり一筋縄ではいかず、ところどころわからないところがあったものの、理解できた箇所は多かったです。また、グループワークの中で積極的に発言できました。ただ、積極性を求めるあまり、周りが見えなくなっていた時もあり、積極性も必要だが、協調性も必要だということがわかりました。